

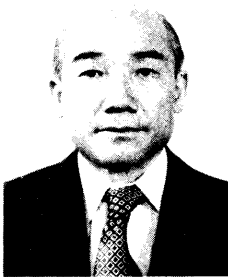
東京都社会保険労務士会 会報

千代田・中央支部

発行所 〒101 東京都千代田区神田須田町1-18(共同ビル8階) 東京屋外広告ディスプレイ健康保険組合
東京都社会保険労務士会 千代田・中央支部 TEL 03 (254) 5691 発行人 榊原 正平

新年のご挨拶

支部長 榊原 正平



新年明けましておめでとうございます。千代田・中央支部の社会保険労務士の皆様方には、家族共々清々しい新年を迎えられたこととお喜びを申し上げます。

昨年は、社会保険労務士法制定15周年ということで連合会、東京会におかれても諸々の行事が開催されました。連合会では社労士の功労者に対して中西会長から感謝状・表彰状の授与がありました。又東京会におきましては、記念行事として街頭相談を企画し当支部でも中央地協として、台東と合同で実施し大変喜ばれました。又11月中旬には、永年に亘る社会保険事務所の算定相談コーナーの協力に対しまして、麴町・神田・日本橋・京橋の社会保険事務所長から会員に感謝状が授与されました。そして最後は昨年の卓尾を飾るにふさわしく、12月2日には日本海運倶楽部におきまして、社会保険労務士の功労者に対しまして厚生・労働大臣からの手で表彰状が授与されました。東京会からは三浦・柏木・栃本さんの三人が其の栄

に輝きました。昨年行われましたこれらの諸行事を顧みますとき、社労士が代行屋といわれた時代からよくもまあ大臣の表彰状を授与されるまでに発展し、成長したものだといふ感の感を深くするものであります。

私も約束ごとの結果支部長に就任して早いもので一年が経過致しました。この間諸々の行事につきまして、公私に亘り一号会員の皆様の心暖まる御協力を頂き今日迄かけ足でやって参りましたが、この機会を借りまして厚く御礼を申し上げます。

次に新年の初夢をおぼろげな記憶をたどって申し上げますと、或る日突然社労士試験がもの凄く難かしくなりました。そんなことから社労士は、弁護士の社会的地位を上廻るようになりました。やがて社会の要請で労働問題も社労士業務に含まれるよう法律の改正が行われました。一流ライセンスと云われる評論家は総て、大学教授か、社労士の肩書きが付くようになりました。来日した米国のレーガン大統領も名誉社労士の称号を得て喜々として帰国して行きました。そんな取り止めのない夢でした。皆様方の精進と健康をお祈り申し上げます。

社労士法制定15周年記念街頭相談

中央地協（千代田・中央、台東）

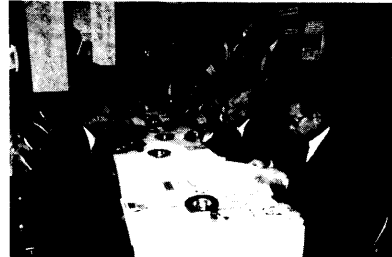
広 報 委 員 会

日 時 昭和58年11月1日～2日

場 所 お茶の水駅前

出席者数

日	千代田・中央	台東	役所	計
1日	8	3	2	13
2日	8	2	2	12
計	16	5	4	25



相談内容

厚生年金 45件, 国民年金 12件, 健康保険 12件, その他 12件, 計 81件

出席者

新堀 英行, 長森 敏泰, 大槻 哲也, 永島 セツ, 相馬 誠一, 富田 秀子, 萩原 広行,
小口 隆明, 山下大九郎, 新井 功一, 森 莞子, 松林 清雄, 浦木 国賢, 伊藤 英男,
吉田佑之助, 古川泰一郎, その他 台東 5名

社会保険事務所 佐藤信雄(日本橋), 早川正士(京橋), 蓮見雅彦(麴町), 山下光一(神田)

社会保険事務所担当官の応援を得たことに対し, 厚くお礼申し上げます。

「街頭相談コーナー相談員を担当して」

山 下 大 九 郎

11月1日, お茶の水駅前のテントの中で街頭に面して, 社労士よろず相談コーナーの様なものを設置し, 通行中の方々の相談に応じました。

最初は, ただじっと見て行く人だけで立寄ろうとする人はなく, 区別してビラを貼ろうということになり, 浦木先生にお願いして, 健保, 年金, 労災, 雇用等各種のビラを書いて戴きました。達筆過ぎたようで「ハテ」といった顔付で立止って読んでいる内に「コレ」と手を打って椅子に坐る方も出て来ました。思っていた通り, 殆んどが年金に関する相談でしたが可成り切実なものもあったようです。

年金加入期間が1年とか2年足りないが, どうしたらよいか。中には加入期間が16年しかない。保険料だけ取られて, どうしてくれるんだと意気込んで来る人もあり, 生年月日を聞けば40才以上15年あって給付を受けられ

る事が判り喜んで帰る人もありで, 様々な質問を担当の先生方が次々と答を出されていました。

或る60才位の方が健康保険の改正案について, 滔々と国民としての意見を述べられ, 専門家の貴方達はどうなのだと言われたのには参りました。

社労士の受験について相談を受け, 幸い東京会が近くなので地図を書いて渡したところ, 早速東京会に出向き, 受験してみますと報告に来られ, 激励してあげた方もありました。

相談コーナーのような行事は, 前もって大衆に知らせる方法を考えてくれ, 或は月一回位の割で, 一定の場所だという意見も聞かされました。このコーナーにより, 私達自身の活躍の場を新らたに見せつけられたような1日でありました。

参加して下さいった先生方御苦勞様でした。

社会保険事務所長感謝状贈呈式が举行

総務委員会

東京都社会保険労務士会千代田・中央支部所属の社会保険労務士に対し、麴町、神田、日本橋、京橋の各社会保険事務所長より、昭和58年11月15日、16日、18日の3日間にわたり、各社会保険事務所の会議室、所長室等において感謝状が贈呈された。

これは、昭和58年度より新たに各社会保険事務所において、感謝状贈呈規定が設けられたものであり、その目的は、管轄する地域に所在する社会保険関係団体の役員等に対し、その功績をたたえとともに、あわせて、その労苦に報い業務の円滑な運営をはかることとした。

今般は、算定基礎届提出時に設置する相談コーナー等で、社会保険業務に協力した期間が「継続した6年間のうち5年以上の者」を対象とされた。

当日は、感謝状贈呈式後、各所長より、心のこもったご挨拶があり、それに続いて、本会より、榊原支部長が各式典ごとに出席し、支部を代表して答礼の挨拶をされた。

その後、お茶とお菓子による関係者の懇談会が開かれ、より一層の両者の信頼関係を強くいたしました。

なお、今回感謝状を頂いた社会保険労務士は下記の通りです。(アイウエオ順敬称略)

1. 麴町社会保険事務所

昭和58年11月16日 午前10時30分

新井 功一、市村 豊、大石 孝、川上 芳男、桑原 良治 込山 元喜、才木 惇、清水誠三郎、関口 尚孝、長森 敏泰 永島 セツ、北野 茂、
--

2. 神田社会保険事務所

昭和58年11月15日 午前10時

石原 健三、小野 伝三、三枝 禮二、山根 松夫、笠原 浩二、隈元 巖、柏木 高美 新堀 英行、長谷川 徹、金綱 久夫、雨宮 功、森萩 忠義、森 莞子、福田 博 秋葉 俊夫、田中 守三、目黒 健、相馬 誠一
--

3. 日本橋社会保険事務所

昭和58年11月18日 午前10時30分

小山 昇、真許 碩義、石山 幸子、千賀 綾二

4. 京橋社会保険事務所

昭和58年11月16日 午後3時

大槻 哲也、佐々木伊十郎、飛沢 孝治、松井 省二、小野 菊枝、小口 隆明、渡辺 唯逸 金沢 律、森 才一、河嶋 平助、富田 秀子、山下大九郎、大森 四郎、大島美智子 松林 清雄
--

“柏木高美氏 厚生・労働大臣より表彰を受く”

広 報 委 員 会

社会保険労務士法施行15周年記念日にあたる昨年12月2日、平河町日本海運倶楽部において、厚生・労働両大臣表彰式が盛大に挙行された。

今回の表彰は、社会保険労務士制度の発展向上に貢献し、併せて社会保険行政の推進並びに、労働行政に係る施策の推進に寄与した功績を認められた7名の功労者に対して、両大臣よりそれぞれ表彰

状が贈呈された。

当支部では、柏木高美氏がこの栄に浴されたもので、先年藍授褒章の受賞と併せての栄誉をたたえとともに、社会保険労務士制度施行以来、初めての両大臣表彰となった同氏の功績に対して、当支部としても最大限の賛辞を呈し、誇りとするものである。

随 想

初 夢

金 綱 久 夫

新年あけましておめでとうございます。

今年は社会保険労務士制度が発足して満16年目になります。16年目といいますと、歌舞伎の熊谷陣屋で真実が「16年は一昔、アア夢だ夢だ」と昔をしのぶ台詞があります。

社労士制度の16年もあっという間にすぎ去りましたが、まだまだ多くの課題をかかえています。知名度においてもあまり一般的でなく、先日連合会が「知らない人多いはず」というポスターを作ったくらいです。今後の大きな課題の一つは、中西会長が先の講演でも言われたように「PRの強化」でしょう。

しかし案外な人が社労士にいます。歌手の松田聖子のお父さんです。先日まで連合会の登録課長をしていたそうです。また、中西会長の「機縁の日々」によりますと、中村メイコの叔父さんは旧協会で「労務管理研究」の編集をしていたそうです。

社労士のPRに一番いいのはテレビで宣伝することで、社労士自身がどんどん出演することでしょう。私も一、二度テレビに出て、その反響の大きいのに驚いたことがあります。

テレビで活躍しているタレントを社労士にすることも大きな効果があるでしょう。たと

えばタモリを社労士にすれば効果満点でしょう。そのためには、教育学院が積極的に彼をなになんでも試験に合格させること。彼は忙しいので、泊りがけの特訓が必要でしょう。その際は支部でプロジェクトチームを作り、一人一科目を担当して必勝を期そうではありませんか！

ついでに欽ちゃんにも一緒に勉強していただきましょう。斎藤清六が厚生省のポスターで「年金受給者のみなさん、住所が変わったら住所変更届をお忘れなく」と言っているのですから、会社の「課長」である欽ちゃんが資格を持った企業内社労士であってもおかしくありません。

さて今年は、テレビで松田聖子が社労士ソングを歌い、中村メイコが社労士ドラマを演じ、タモリが「みんなで広げよう、社労士のウ」と言い、欽ちゃんが「良い社労士、悪い社労士、普通の社労士」のコントをするのが見られるでしょう。そして「知らない人多いはず」のポスターはなくなり、「知らない人いないはず」のポスターが街に氾濫するのです。

(金綱経営労務事務所)

除夜の鐘で元旦になると、そろそろ初詣でに出かけるが、今年の願いを込めて手を合す者もいる。その大方は、雑踏の中をただ人の心の触れ合いを求めて歩くのではないだろうか。人間は、生物として本能的に集まることを求めている。しかも集まりのなかで倫理社会を形成していく。人間には言葉があり、コミュニケーションによって知識を得、それによって創造することができる。私達は、揺らんから墓場まで集団のなかで生きている。産声で自分の存生を示すことによりはじまるが、乳幼児のあの可愛い目で母の顔をみながら母乳を吸っている光景は、母と子の心の触れ合いとなっている。幼稚園は、集団生活のはじめての場であり、お互いの意思の交換の場でもある。成長するにしたがって、本能として常に新しいものを求める。親兄弟よりも、むしろ友人であることの方が多い。小学生のアンケートで、多ければ多いほど楽しいものは、友達とのことである。社会に未熟だと、

触れ合いも、良い方向に進めばよいが、間違えと悪の集団と化することになる。コミュニケーションの内容によっては、良くも悪くもなる。社会人は、お互いに心身ともに成熟期に入るが、仕事一途の者は、仲間との心の触れ合いが少なくなる。将来を考えれば、仕事以外のコミュニケーションも必要であろう。家庭の主婦は、町会、自治会、サークル活動などで近隣の接触が多く生きがいとしている。老いれば、核家族社会により老夫婦の場合はまだしも、一人暮らしとなると話相手がなく、よくきく愚痴に、「一人でいると病気ばかりを考え、つい病院通いが多くなる」病院が顔見知り社会の対人コミュニケーションの場となる。協調性のある老人は、スポーツ、旅行、踊りなどにより心の触れ合いを見出している。私達は、社会集団の中で、お互いに協調しあいながら、より楽しく生きたいものである。

(大東商事株式会社)

慶弔規程（東京会）の改正（抜粋）

（結婚祝金）

第3条 会員が結婚したとき 祝金 1万円

（弔 慰 金）

第4条 会員の死亡 香典 3万円

配偶者死亡 香典 2万円

実子又は養子、父母死亡 香典 1万円

希望があれば範囲内の花環を贈る

（傷病見舞金）

第5条 会員の負傷又は疾病のため1ヶ月以上休務 見舞金 1万円

（災害見舞金）

第6条 会員の事務所又は住居の災害 軽微なものを除き見舞金 1万円

（特 例）

第9条 3条乃至6条の規定にかかわらず特に貢献した会員には花環を贈り又は増額することがある。

この規程は昭和57年4月1日より施行

※上記に該当される方は、支部長宛ご連絡願います。

学びとたのしみの実をあげて

— 研修旅行会了わる —

厚生委員会

恒例の研修旅行会が、10月14日～15日、箱根湯本「春光荘」で開催されました。

都塵をさけて、錦秋というにはやゝ早い秋晴れの箱根路に参集された会員の方々は30名余。

一部の研修は、3時半から講師に榊原支部長を迎えて、「ヨーロッパの社会保障」をテーマとして開催されました。

昨年の訪欧視察団に参加された講師は、その実地見聞から得られたものを理論づけ、巧

みな話術で硬軟とりまぜ縦横に語りかけられ、その内容は充分示唆にとむ濃いもので、聴衆に深い感銘を与えました。

二部は、6時から懇親の宴にうつり、お互い杯を交し合い、大いに語り合い、ときに日頃自慢ののどを披露し合って楽しい一ときを過しました。

こうして研修旅行会は、所期の目的をあげて無事終了しました。

“新規開業会員の皆様へ名札掲示のお知らせ”

広報委員会

新規開業者、事務所移転等により名札掲示を希望される方は、下記の通り担当して居り

ますので、ご連絡の上詳細をお打合せ下さい。

○ 麴町社会保険事務所	副支部長	長森 敏泰 (264) 6871
○ 神田社会保険事務所	副支部長	新堀 英行 (254) 1955
○ 日本橋社会保険事務所	幹 事	千賀 綾二 (241) 5672
○ 京橋社会保険事務所	副支部長	大槻 哲也 (562) 3095
○ 中央労働基準監督署	副支部長	大槻 哲也 (562) 3095

あ と が き

明けまして、おめでとうございます。本年も変らぬご協力を、お願いします。

昨年は、本号に見られる通り、一大飛躍の年であったと思います。記録を残し、その記録を更新する努力と、夢と、夢の実現に向っていく「会報」にできないかと思っています。重ねてご協力をお願いします。